2 屈折検査

1 他覚的屈折検査

1. オートレフラクテーター

1) 目的

- ①他覚的屈折度数の測定
- ②角膜曲率半径の測定

2) らくらく検査チャート

器械の高さと顎台の高さを調節する

測定中心を瞳孔の中心に操作し、ピントを合わせる

測定する (3回以上測定する)

3) 結果のみかた

オートレフラクテーターの値 (他覚的屈折度数)	球面度数	乱視度数	乱視の軸
右眼	-6.00	-1.50	166
代表値	<-6.00	<-1.50	<166>
左眼	-7.00	-1.25	8
オートケラトメーターの値 (角膜曲率半径)	7.92	42.50	8
	7.66	44.00	88
	7.79	43.25	8
	<CYL	<-1.50	<167>
	PD	61	

信頼度数、弱主経線の角度、強主経線の角度、角膜乱視

2. 検影法 (スキアスコピー/レチノスコピー)

1) 目的

日常視に近い両眼開放下での屈折検査。

2) らくらく検査チャート

検査は半暗室で行う。被検者と50cm離れて対座する

まぶしくなく縮瞳しにくい乳頭面で検査する。
右眼 (左眼) 測定では検者の右耳 (左耳) 後方を見てもらう

縦長の開散光にした光を被検者の瞳孔に入れ
水平方向へ移動させる (スキミング)

検影器を動かしながらのぞき穴から検影器の動きと
反射光の動きとの関係を観察する

同行

同じ方向

遠視、正視
-2.0 D未滿の近視

凸の板つきレンズの
度を増し中和させる

中和

動きなし

屈折度数
-2.0 D

屈折度 (D) = 中和のときの
検査レンズ -2

逆行

逆方向

-2.0 Dより
強い近視

凹の板つきレンズの
度を増し中和させる

1 経線の屈折度測定ができれば